

石油に関する意見交換会を開催しました

東北支部との意見交換会

日時 ⇒ 2013年8月24日（土）13：30～16：45（意見交換会 15:20～16：45）
会場 ⇒ ハーネル仙台 けやきA
参加者⇒ NACS 東北支部：男性4名 女性4名
石油連盟：3名 NACS 環境委員会：3名

参加者らは程度に差はあるものの、震災後、不自由な数日間を過ごしたとのことであった。その中で、暖を取るものは石油ストーブしかなかった、煮炊きもこの上で行うなど、石油ストーブをフルに活用したとの報告がまずあった。

震災時の灯油、ガソリン価格の高騰についての質問があり、石油連盟側からは、独占禁止法に抵触するので石油連盟が特約店の小売価格を決めることはできないものであることが説明された。石油は確かに、電気やガスなどのように公共性が高いが、それならば固定価格の方がよいかとの石油連盟橋爪氏からの質問に対しては、参加者全員が自由価格で競争があつて構わないとのことであつた。だが、今回の経験をふまえ、災害時には供給量や価格をコントロールできないか、考えてほしいとの要望が出された。

ガソリンは震災以降、ある程度保管している人も多いが、安全性という点では問題もあるし、灯油が残ってしまった場合、長く置いてよいのか、また捨てる方がよくわからないとの声が出た。

暖かさを求めればストーブは使いたいが、灯油は重く運んだり入れたりが大変であり、使用に際しては結構手間がかかるとの指摘があつた。

プラスチック容器は保存などに便利であるが、ペットボトルは本当にリサイクルすべきか、色々な意見がある点が気になる。ペットボトルリサイクルの経済性について知りたいとの声も出た。

なお、東北北3県と南3県とでは生活スタイルが全く違うようで、交通網が発達し、集合住宅の多い仙台市内は東京とほとんど同じであろうとのことであつた。

